

令和5年度和歌山県文化功労賞

まつやま かおる
松山 馨

住 所 和歌山県和歌山市
出 身 地 和歌山県和歌山市
生 年 昭和5年

◎ 業績及び経歴

昭和5年和歌山県和歌山市にて生まれる。昭和23年和歌山県立和歌山高等女学校を卒業後、和歌山県職員として勤務。25歳の時に「和歌山短歌会」を結成。その後、結婚、退職し主婦として家族を支える傍ら、一貫して短歌の創作活動に精励する。

『万葉集』、『古今和歌集』に代表されるように、古くから人々は、五、七、五、七、七の三十一文字からなる短歌に様々な心の模様を託してきた。氏は、昭和30年以来、『花籠』、『春暁』、『城のほとり』、『序破急』、『動線』と自身の作品を歌集として世に出しているが、それらを構成する一首一首が氏の心の内を真直に情愛豊かに詠い上げるものとなっている。若き日の瑞々しい感情、戦時中の記憶、夫・姑への愛情と離別の悲しみ、それらすべてに通底する故郷和歌山への思いなど、歳を経るごとにその歌は円熟味を増し、氏の短歌に対する並々ならぬ情熱を感じさせる。その作風が評価され歌集『動線』は日本歌人クラブ近畿地区優良歌集賞を受賞している。

また、氏は和歌山短歌会の代表として、昭和30年の結成より約70年の長きにわたり会員達の作歌能力の向上に力を注いでいる。同会の会誌『さわらび』（前身『わかやま短歌』）は昭和49年の創刊以来、現在まで、氏の指導のもと約50年間一度も休むことなく年2回の発行が続けられている。

さらには、氏の短歌の普及活動は同会に留まらず、昭和60年から平成30年まで毎日新聞の紀州歌壇選者を務めたほか、和歌山県歌人クラブ会長、同名誉会長、和歌山文化協会文芸部長、和歌山刑務所篤志面接委員、日本歌人クラブ近畿地区ブロック委員等、様々な立場から短歌を愛する同志を増やし育ててきた。

70年以上の長きにわたり情愛を持って短歌に精励し、後進を育成し続ける氏の活躍は、本県における短歌の普及、向上発展に大きく貢献するものであり、その功績は誠に多大である。

■ 現 在

・ 歌人

◆ 主な表彰歴等

平成22年 日本歌人クラブ近畿地区優良歌集賞